

【「水は命。」】

宮崎県 宮崎市立生目台中学校 二年 吉永 茉莉香

小学校の頃から給食で毎日飲んできた牛乳。暑い夏、体育の授業後に飲む牛乳は格別だ。グイッと一気に飲んでしまう。栄養価が高く、私たちの体を健康にしてくれる牛乳に、実は水が深く関わっていることをどれだけの人が意識しているのだろうか。

私の祖父の仕事は「さく井業」。簡単にいうと「井戸工事」だ。祖父は若い頃からたくさんの井戸を掘って水を汲みだし、いろいろな人や仕事に必要な水を供給してきた。祖父のこれまでの仕事の中で、印象に残る一つに一軒の牛農家での井戸工事があった。

「牛の飲み水が出ない。このままでは、牛乳の生産ができない。」

私はまだとても幼かった頃の正月、祖父にこのような一本の電話があった。それが、この牛農家からのものだった。正月といっても農家には休みはない。水の確保はすぐにでも何とかしないと牛の命に関わる。祖父と父、そして父の兄弟達は、急いでトラックにポンプや工具などの荷物を積み、牛農家へと出て行った。無事に工事は終わって、牛の飲み水が出るようになったそうだ。

「茉莉香たちがおいしい牛乳を飲めるのも、水のおかげ。」

そうやって笑顔で祖父は牛乳と水との関わりを話してくれた。

祖父は長いさく井の仕事で、多くの井戸を掘ってきた。酒屋さんや動物園の井戸も掘ったという。祖父は私に言った。

「水は命。水がたった十分だけでも止まってしまったら、人間も動物も植物も、全てのものが困るんだよ。」

そんな話を聞くと、命をつないでいくために水がどれだけ大切かひしひしと伝わってくる。祖父の話は続く、

「水は、酸性が強くなるとまずくなってしまう。水の性質は、全ての食品のおいしさを左右するんだよ。」

それを聞いて、私は驚いた。水の性質が食べ物味の味にまで関わっている

なんて。祖父の話聞いて何だかうれしくなった。水の性質を熟知し、たくさんの水を届け感謝されてきた祖父の仕事は本当に重要な命をつなぐ仕事だと自信をもって言えるし、自慢できるからだ。「水は命。」という祖父の言葉は私にとつてとても意味のあるものとなった。

そんなとき、その祖父の言葉の重みを更に感じさせてくれる災害が起こってしまった。四月十四日に熊本で大きな地震があった。家も壊れ、学校等の施設や車の中で生活しなければならなくなった人が大勢いる。テレビ映像で、アナウンサーが避難生活をしている人にインタビューしている姿が映された。

「今、一番何が欲しいですか。」

「水です。」

どの人も水が欲しい、水が不足し困っていると答えていたのが心に深く残った。考えてみると、水は単に飲み水として使われるわけではない。私たちが日常生活を送るとき、どれだけ水を使っているか、水が止まって初めて気づくのだ。実際、私の住んでいる生目台地域でも、平成十七年夏の台風で、宮崎市の浄水場が水没したことにより、水の供給が止まったことがあるそうだ。私はまだ小さくて覚えていないのだが、今回の地震の時と同じように、自衛隊の方々に給水を受け、本当に助かったという話を聞いた。

「水は命。」と祖父が言ったように、水がいかに多くの命を生かしているか、今実感できる。水がなければ命はつながらない。水があるからこそできることが数え切れないほどある。さく井業で水と深く関わりながら生きてきた祖父の言葉だからこそより重く感じられる。努力家の祖父は今も元気に水を届ける仕事を続け、命をつなぐ。私には何ができるだろうか。「水は命。」という言葉をもっと多くの人に伝えることが私の第一歩かもしれない。